海外で広がる魅力　日本では…

無形文化遺産登録から10年

「好き」の割合低下　家庭で作る機会減る？

①海に囲まれ、長い日本では、季節や地域ごとさまざまな食材を使った食育できました。2013年に登録された「和食」には、料理そのものだけでは、自然を大切にする日本人のもとづいた食文化もふくまれています。

②登録されてから10年で、海外では日本食レストランが増えていると、13年のが、今年店に増えました。和食文化振興会議（和食会議）事務局は、「世界で広まっている理由の一つに「健康的な食事として注目」を挙げます。

③和食の基本は、主食の「ごはん」に、ごはんをおいしくべるためのみそ汁などの「一汁三菜」です。栄養バランスよくとるためにできた形といわれています。

④和食に欠かせないかつお節や昆布などからとる「だし」です。うま味成分のにじで味つけをすることで一価油脂の少ない食事になり、ぐことにつながります。

⑤22年度の農水省と、国内での和食するイメージは「もっとも高く、60代がた。ただ、博報堂の調査では「和風と答えた人の割合5％でしたが、22でした。

⑥和食をめぐってそう」「手間がかかージから、今後、る機会が減ってしされています。

風土に合わせた文化　よさを伝え続けたい

⑦農水省の22年度食や和食文化に、り、受けついだいる」と答えたのはました。

⑧国内外で活躍「本料理人は、和食の魅力をつぐ意義をようか。4について語22日、キッの3代目、10年で、海『このだ人が多くな

⑨京都市の「木乃髙橋拓児さんは「外の人たちの舌がしは何？』などと

⑩京都市の「美山東久人さんは、こ食は日本人の環境上げてきたもの。ったりで、健康にのものでもあると日本人のためでも

11月①
11月4日（土）
「和食・海外で広がる魅力　日本では・・・」